

# 「新型うつ」の若者はなぜ増えた？ —自己呈示理論からの考察—

講演者: 山川 樹 (日本大学)

# 概要

「新型うつ」の若者はなぜ増えた？

人間の  
基本的な性質



社会的背景



自己呈示動機



疾病喧伝

# 「新型うつ」の若者はなぜ増えた？

## 理由①：自己呈示動機

目的に合わせて、  
相手が自分に抱く印象を  
変えようとする事

# 自己呈示動機



**セールスマン  
好印象で成績UP**



**体調不良  
弱さをアピール**

- **精神疾患症状を呈する程度にも自己呈示的一面**
  - 他者からケアを引き出す/ケアを断る
  - 不都合に対する弁解になる
    - 叱責や印象悪化を低減

# ⚠ 注意 ⚠



## ▣ 仮病や詐病とは違う

- 仮病: 欠席の理由付けなどその場しのぎ
- 詐病: 経済的/社会的利益のために病気を偽る

## ▣ 病気の自己呈示

- 実際に病気
  - 症状は存在している
- 症状を呈する程度をコントロールする
  - ちょっと重そうに/軽そうに



# 「新型うつ」の若者はなぜ増えた？

## 理由②：疾病喧伝

病気の売り込み行為

しっぺい けんでん

# 疾病喧伝

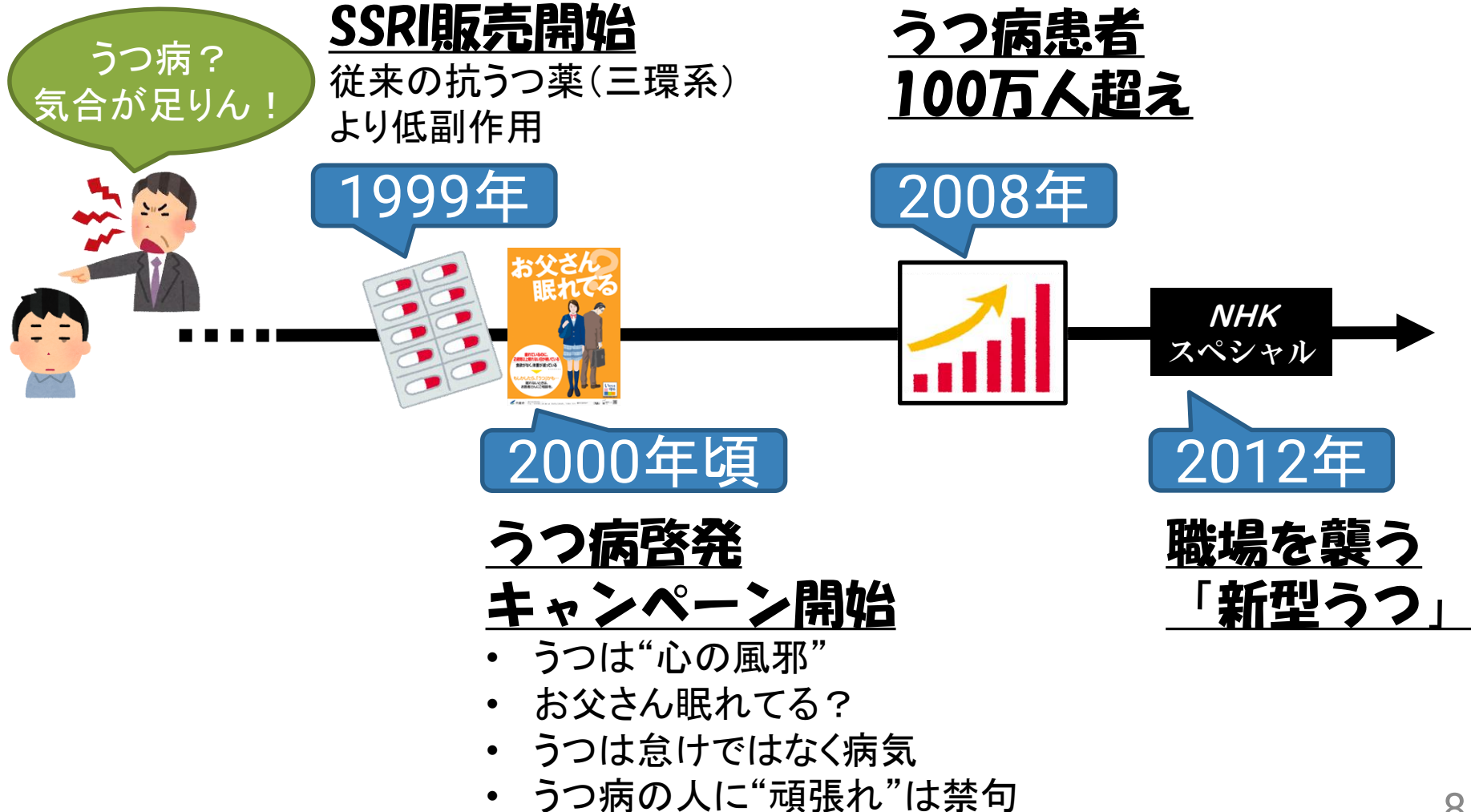
- その薬の宣伝/病気の啓発は、苦しむ人のため？
- 薬を売りたいくて、不安を煽っているだけでは？

放っておくと、AGA(薄毛)は進行します。

お医者さんへ相談だ！



# うつ病も疾病喧伝では？





# ⚠ 注意 ⚠

## ▣ 啓発活動は重要

- 精神疾患の治療には、「偏見」の低減が必要
  - 頭がおかしい, 何を考えているか分からない
  - よくわからない, 怖い
- 正しい知識を身につけ, 理解を深める
  - 早期発見, 早期治療につながる



## ▣ うつ病の難しさ

- 自殺のリスク
- 「気分の落ち込み」は誰でも経験する



# 「新型うつ」の若者はなぜ増えた？

人間の  
基本的な性質



社会的背景



自己呈示動機



疾病喧伝

# 「新型うつ」

よくあること



仕事が  
うまくいかない



気分が落ち込む



うつ病かも

自分がダメなせいじゃなくて、  
病気のせいなんだ（ホッ



うつ病かも知れませんが  
お薬飲んで様子見ましょう

「新型うつ」の若者はなぜ増えた？

## 研究紹介

「うつ病」と病名を伝えるだけでも  
弁解として成立する？

# Yamakawa & Sakamoto (2016) 学会発表より

## ■ 失敗した人が「うつ病だと思う」と発言した場合の評価 一般的な15の言い訳と比較検討

➤ 一般的な言い訳: 予備調査で収集(付録1参照)

## ■ 分析対象者

➤ 大学生369名(女性168名;  $M_{age} = 20.00, SD = 2.75$ )

➤ 事例(付録2)を読んでもらい、主人公が各言い訳をしたら、  
①その言い訳をどう評価するか, ②その人物を許せるかどうか調査

## ■ 評価項目

### 原因帰属

(外在性, 統制不能性, 無意図性, 不安定性)

### リスク評価

(予測不能性, 深刻性)

主成分回帰分析

許せる程度

# 研究紹介

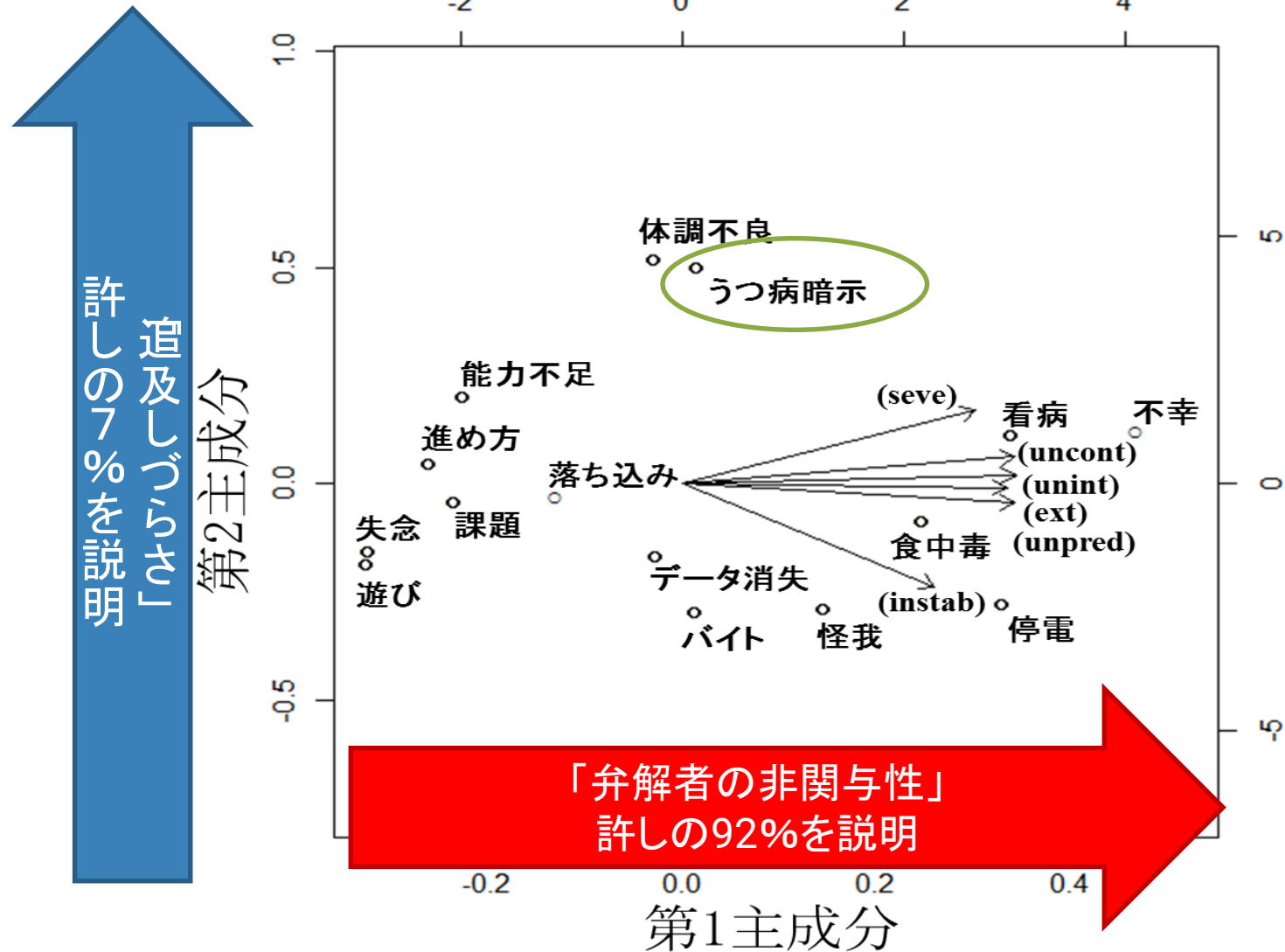


Fig. 1 主成分分析の結果 (Yamaka & Sakamoto, 2016を元に作成)

# まとめ

仕事のストレスからうつ病になってしまいました。  
治療のためにお休みをいただき、  
リフレッシュしてきます。  
(全部病気のせいなんです)



病気なら仕方ないよね。  
早く良くなって戻ってきてね。  
(え。遊びにも行ってるの？本当に病気？  
でも変なこと言って悪化したらよくないし…)

- 個人差については次の村中先生のご発表で！
- 実際のところ、部下や同僚のこうした発言に対し、どのように感じていらっしゃるでしょうか？
- 現場の声をお聞かせください！

# 文献紹介①

ストレス科学 32(1): 81-89, 2017

【特別企画：新型うつ】

## 「うつのアピール」に対する自己呈示理論からの論考

山 川 樹<sup>1)</sup>

抄録：本稿は「うつのアピール」と呼ばれる、「新型うつ」の行動特徴の1つを自己呈示理論から考察することを目的とした。「うつのアピール」とは、いわゆる「新型うつ」とされる人々がしばしばとる、「自ら『うつ』であることの診断書を求め」たり「自分が『うつ』であることを主張する（隠さない）、あるいは『うつ』であるかもしれないとはめかす」行為を指す。そして自己呈示（self-presentation）とは、他者が形成する自己に対する印象を統制しようとする過程と定義される。すなわち自己呈示理論では、人間の社会的行動を、何らかの目的のために、他者が強く自分への印象を操作しようとする行為として解釈する。

本稿の結論は、「新型うつ」の人のとる「うつのアピール」は不適応的な援助希求行動（help-seeking behavior）ではないかということである。すなわち「新型うつ」の人は、自身の不調の原因をうつ病へ帰属し、それを周囲に訴えることで、自尊心や自己評価を下げずに、周囲からサポートを得ようとしているのではないかと考えた。ところが、「うつのアピール」は主に2つの点から不適応的だと考えられる。まず、真に本人の責任で生じた問題の原因をうつ病へ帰属してしまうと、自身にある問題点を改善する機会が失われ、根本的な解決にならない。次に「新型うつ」の場合、従来型うつ病ほど重篤な状態ではないことが多く、気分反応性の特徴をもつため、当初はうつ病という病名を聞いて支援的に接していた周囲も、「うつのアピール」が続くと「本当にうつ病なのか」と疑義を抱き、かえって「うつのアピール」をする人を拒絶する可能性がある。

本稿ではまず自己呈示理論について要略した後、「うつのアピール」に関連する自己呈示研究として精神疾患の自己呈示に関する先行研究を概観した。最後に総括として、これらの研究結果および「新型うつ」の背景要因として考えられている社会文化的変化について言及し「うつのアピール」について考察した。

**Key words:** うつのアピール、自己呈示、啓発、うつ病

### 1. はじめに

いわゆる「新型うつ」とされる人々の行動特徴の1つに「うつのアピール」がある<sup>1)</sup>。すなわち、「新型うつ」の人はしばしば「自ら『うつ』であることの診断書を求め」たり「自分が『うつ』であることを主張する（隠さない）、あるいは『うつ』であるかもしれないとはめかす」といわれている。そして「新型うつ」の人のこのような行動は、自分

の思いどおりいかないことに対する責任を、自分自身から「うつ病」という病気へ転嫁しようとしている行為ではないかと考察する精神科医もいる<sup>2)3)</sup>。

社会心理学において上記のような不都合に対する責任を自分以外のものに転嫁する（i.e., 帰属する）ことや、何らかの目的を達成するために自らを弱く見せることは自己呈示（self-presentation）の一種として概念化されている。そこで本稿は、「新型うつ」の人の持つ「うつのアピール」という行動特徴について、自己呈示理論の観点から考察するこ

1) 日本大学文理学部

■ 山川樹(2017)「うつのアピール」に対する自己呈示理論からの論考, ストレス科学, 32, 81-89.

■ 本日の内容について、より詳しくまとめた論文

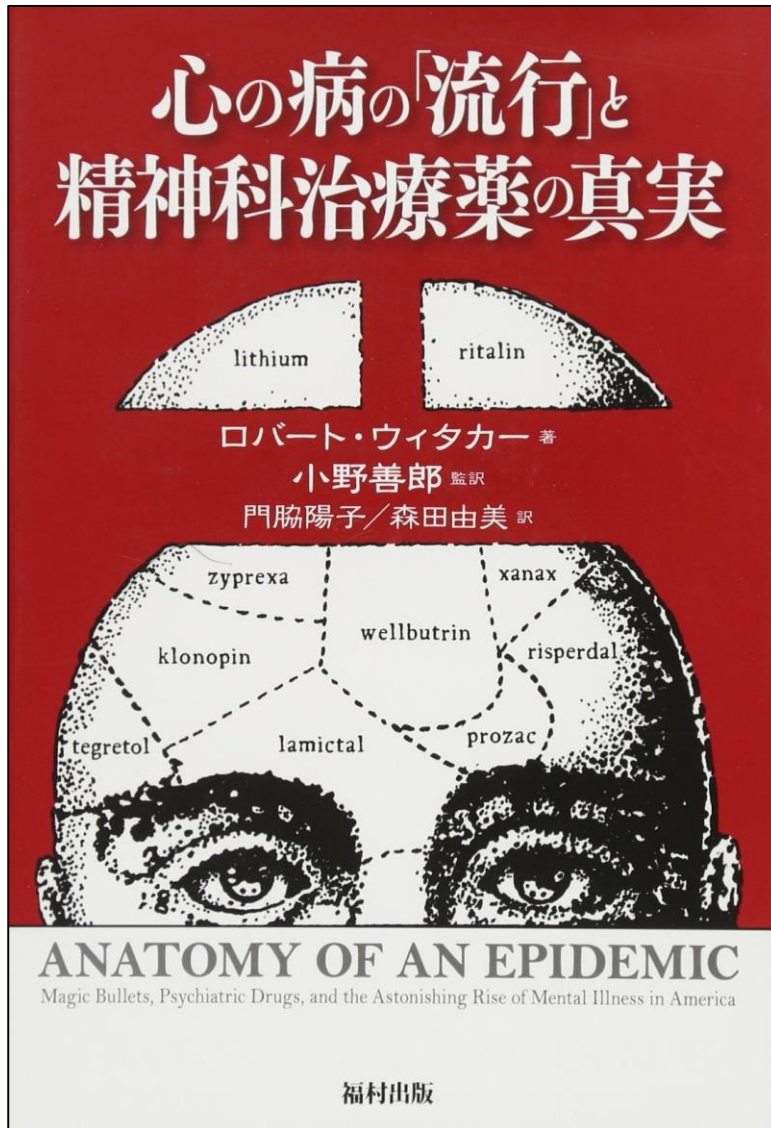
➤ 非専門家向けに平易に書きました

■ コピーあります。

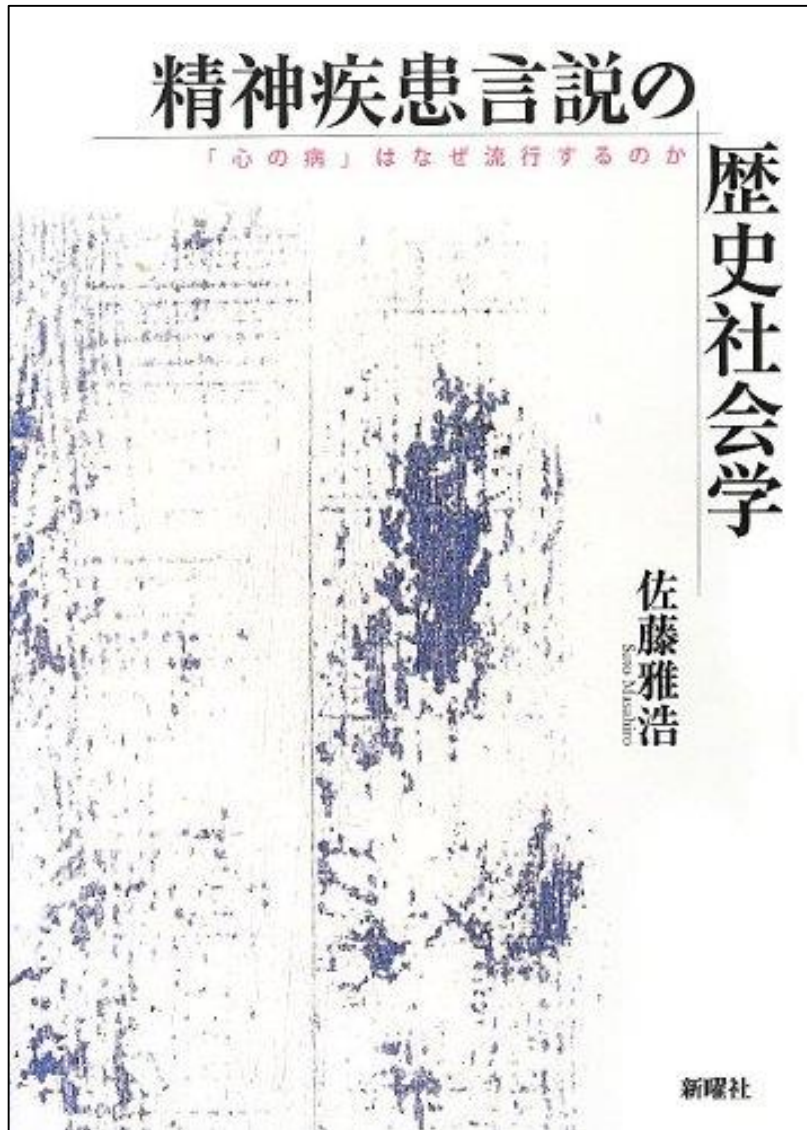


# 文献紹介②

- アメリカにおける疾病喧伝に関する書籍。
- 論文を読んだり，専門家，患者家族への取材を通じ，薬物療法に傾倒する社会へ警鐘を鳴らしている。
- 読みやすい



# 文献紹介③



- 副題:「心の病」はなぜ流行するのか
- 日本でもうつ病だけじゃなく、特定の精神疾患が流行り、次第に廃れるという歴史は昔からあることを検討している書籍
  - 神経衰弱, ヒステリーなど
- やや難解

## 文献紹介④



- 昨今のうつ病を巡る問題に関して、医療人類学の立場から検討している書籍。
- 世界的なうつ病の流行について、日本と北米を比較しながら、検討している。
- 日本独特の「うつ病観」について知るのによい。
- 比較的読みやすい。

# 参考・引用文献

## ■ 精神疾患の症状の自己呈示に関する研究

### ➤ 統合失調症

- Braginsky, B. M., & Braginsky, D. D. (1967). Schizophrenic patients in the psychiatric interview: An experimental study of their effectiveness at manipulation. *Journal of Consulting Psychology, 31*, 543–547.

### ➤ 社交不安

- Snyder, C. R., Smith, T. W., Augelli, R. W., & Ingram, R. E. (1985). On the self-serving function of social anxiety: Shyness as a self-handicapping strategy. *Journal of Personality and Social Psychology, 48*, 970–980.

### ➤ うつ病

- Schouten, P. G., & Handelsman, M. M. (1987). Social basis of self-handicapping: The case of depression. *Personality and Social Psychology Bulletin, 13*, 103–110.

## ■ 引用文献

- Yamakawa, I. & Sakamoto, S. (2016). Reconsidering the evaluation dimensions of excuses: “hesitating to ask” as a new evaluation dimension, Society for Personality and Social Psychology 17th Annual Convention, San Diego – USA, January.
- お父さん, 眠れてる? のチラシ
  - <http://www.mhlw.go.jp/seisaku/2010/07/03.html>

No	カテゴリ	内容
1	アルバイト	突然バイトの代理を頼まれてしまった
2	他の用事	他にも課題があって忙しかった
3	遊んでいた	友達に誘われて遊びに行っていた
4	身内の不幸	身内に不幸があった
5	身内の看病	急に身内が入院して看病に行ってた
6	停電	課題をやってる最中に停電になってデータが消えてしまった
7	進め方	進め方が悪かった
8	データ消失	うっかりデータを消してしまった
9	失念	遊んでいて忘れてしまった
10	気分の落ち込み	気分が落ち込んでいた
11	能力不足	自分の力では無理だった
12	怪我	足を踏み外して怪我してしまった
13	食中毒	食中毒になってしまった
14	病気	元々体が弱くて、体調を崩してしまっていた
15	うつ病暗示	うつ病だと思う

# 事例文章

あなたと同じ授業を受講するA君はある授業の課題として、あなたを含む数人とグループを作り協力して課題の発表をすることになりました。

(中略) A君は、自ら希望した自分の得意分野を担当することになりました。また、3日あれば余裕をもってできるだろうという意見で一致したので、3日後に各自成果を持ち寄って、みんなで続きの作業を進めようということになりました。

(中略) さて、3日後再びグループで集まると、A君だけが自分の担当部分の課題をやってきていませんでした。そのため、予定通りに課題を進められませんでした。A君は「**やろうとしてたけど出来なかったんだ。**                    」と言いました。

A君の言動を見ていると、どうやら嘘をついているというわけでもなさそうです。